

発行:医療法人社団 神鋼会 神鋼病院
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4-47 電話:078-261-6711(代表) FAX:078-261-6726
発行責任者:病院長 山本正之 編集責任者:神鋼病院広報委員会 委員長 山神和彦



神鋼病院 外来化学療法センター

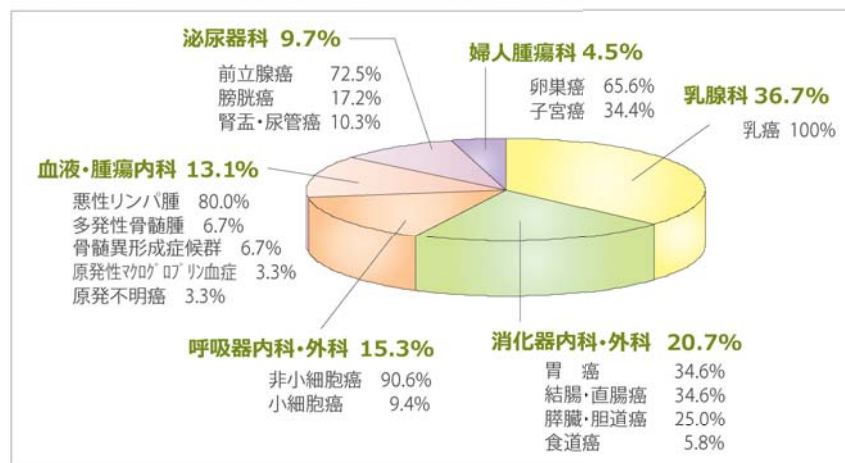
外来化学療法 センターの設立

外来化学療法の目的は、患者さんの社会活動を可能な限り損なうことなく、望ましい化学療法を継続することで延命効果を発揮させることにあります。入院による長期間の拘束自体がQOLの低下をもたらすという考えや、DPC導入に伴う在院日数の短縮・医療経済的なコスト削減といった近年の医療情勢の変化から、外来化学療法に対する需要が急速に高まってきました。

また、新規抗癌剤の開発に伴うレジメンの改良によって外来化学療法の適応が広がり、抗癌剤に伴う吐き気や好中球減少による感染症対策などの支持療法が向上したことで、有害事象を軽減させ入院で行われている治療と同等の十分な効果を維持することが可能となりました。

当院の外来化学療法は、2006年1月より従来の処置室から独立した化学療法室(7床)で運用が始まり、2007年8月に12床(ベッド5床、リクライニングチェア7床)の外来化学療法センターが開設されました。医師2人と看護師2~3人が専任として常置し、各科の患者さんを一元化して受け付け、プロトコールの事前登録制と投与計画書に基づいた無菌調剤による化学療法を実践しています。

グラフ1 診療科別利用率および原発臓器の内訳



当センターの実績

2007年8月開設以来、当センターを利用された患者さんは500人を超え、施行された外来化学療法の延べ件数は6,100件に達しています。

対象疾患は、乳がん、肺がん、消化器がん、婦人科がん、泌尿器科がん、血液疾患および原発不明腫瘍等の腫瘍全般にわたります。この2年間の診療科別の利用率と原発臓器の内訳をグラフに示します。

平均年齢は62±11歳(17~85歳)で、臨床病期はStageIVが約40%を占め、術前化学療法やアジュバントに比べ、再発・切除不能例に対する治療が多く全体の63%を占めていました。

外来化学療法として約60レジメンが施

行され、新規抗癌剤によるレジメン、血管新生阻害剤や新規分子標的治療薬等にも積極的に取り組んでいます。



草間 俊行 センター長

腫瘍内科医長

日本外科学会専門医
日本消化器病学会専門医

その他所属学会
日本癌学会
日本臨床腫瘍学会
日本がん転移学会

患者さんのニーズによって埋没型中心静脈カテーテルシステムを導入し、外来在宅化学療法も可能となっています。また、腹腔内投与や持続肝動注も可能な限り外来で施行しています。

2008年10月からは、前立腺がんおよび乳がんに対するホルモン療法(LH-RHアゴニスト)も当センターで施行し、この1年間で161人、延べ件数約1400件の利用がありました。2009年4月からは骨病変に対するビスホスフォネート治療やリウマチに対する生物学的製剤による治療も外来化学療法センターに移行し、安全性の向上に努めています。

「快適、安心、便利」な がん治療のために

外来化学療法を有効かつ安全に行うためには、各医療職間での情報の共有と十分なコミュニケーションを目指した医療システムの整備が重要です。

当院では2005年2月に診療部門・薬剤室・看護部・検査室からなる化学療法委員会を立ち上げました。主治医毎に異なっていたレジメンを統一し、プロトコールの登録や投与計画の検討、注射オーダーのセット化等により処方や点滴ミスを防止するシステムを構築しました。以前は主治医毎に個別に行われていた化学療法をセンターに集約することで、情報の共有と有害事象の迅速な対応が可能となりました。



治療中は、点滴の状況や患者さんの容態などを定期的にモニタリングし、副作用の発生時には専任医師が即座に対応しています。当センター開設後に抗がん剤点滴



中に発生した重篤な有害事象は、アナフィラキシーが7件(カルボプラチン5件、タキソール1件、タキソテール1件)ありましたが、入院は1名のみで、他は早期の対応で当日帰宅が可能でした。軽度のアレルギー反応、タキソテールやハーセプチンによる咳、リツキサンによる血圧低下等は、前投薬や点滴速度の工夫でコントロール可能でした。抗がん剤の血管外漏出が4人ありましたが、発生早期の対応で重篤な皮膚障害等無く経過しています。

治療経過中に入院が必要となった有害事象は、発熱性好中球減少症16人、重傷感染症13人(肺炎9人、肝膿2人、髄膜炎1人、膿胸1人)、食欲低下や脱水症13人、その他、Grade3以上有害事象としての皮膚症状6人、末梢神経知覚障害5人、下肢深部静脈血栓症1人で、全体の約1割を越える患者さんに有害事象に対する治療が必要でした。

ほとんどの患者さんは自宅で有害事象を経験し、次の治療の時には既に症状が消失しているため、医療者が患者さんの苦痛に気づきにくい状況にあります。そのためにスタッフ一同は外来化学療法中のコミュニケーションを通じて、患者さんの自宅での様子や有害事象の早期のサインを拾いあげられるように心がけています。

患者さんが帰宅後あるいは経過中に状態変化を自覚した時には、当センターに直接連絡していただき対応できるシステムをとっています。また、夜間休日の緊急時には救急センターでの対応、さらに重篤な有害事象やoncologic emergenciesに対しては循環器センター・呼吸器センター・消化



器センター等の各専門領域との迅速な連携と早期治療が可能です。今後も、当院の特性を生かしたチーム医療としての外来化学療法の充実と患者サポートの向上を進め、患者さんにとって「快適、安心、便利」な診療を提供していけるようスタッフ一同努力してまいります。今後とも何卒よろしくお願いたします。

外来化学療法室の概要

- 開設：2007年8月
- ベッド数：12床
(ベッド5床、リクライニングチェア7床)
- 2009年の実績

全身化学療法	
年間利用者数	330人
年間利用延件数	2,766件(昨年比1.16)
月間利用件数	平均230件(200~275件)
ホルモン療法	
年間利用者数	161人
年間利用延件数	1,386件
骨病変に対するビスホスフォネート治療	
年間利用者数	29人
年間利用延件数	145件
関節リウマチに対する生物学的製剤治療	
年間利用延件数	96件

- 専任医師
腫瘍内科 — 草間俊行
血液内科 — 常峰紘子
- 専任看護師
2~3人(ローテーション制)

抗がん剤治療における安全管理について

日本病院薬剤師会近畿ブロックがん化学療法認定薬剤師

薬剤室 山内 寛子

当院では、抗がん剤を患者さんに安全に投与できるシステムを構築することを目的に、外来化学療法委員会を立ち上げました。委員会は医師・看護師・専任薬剤師で構成されており、最初の取り組みとして各科主治医毎に異なっていた抗がん剤の処方方を統一しました。さらに処方や点滴ミスを防止するために、注射オーダーをセット化しました。新たな治療法に関しては、委員会で審議し採否を決定しています。

薬剤室では、専任薬剤師のもと任命された化学療法担当薬剤師3名も抗がん剤の投与スケジュールの作成等に参画し、それらの一元管理・投与計画書の作成及び注射オーダーのセット化等を行っています。

外来化学療法に関する薬剤室の主な業務内容

I 薬歴の作成

抗がん剤処方量の投与量、投与間隔、処方内容をダブルチェックしています。

II 抗がん剤調製

投与当日、主治医より投与可否の連絡を受けてから調製し、抗がん剤とその薬液採取量をダブルチェックしています。(月平均303件)

このように、システムの構築と運用を遵守することで、安全に外来化学療法を行える環境が整備できました。今後も様々な新しい治療法が考案され、その内容は一層複雑化していくことが予想されます。迅速に最新情報を提供していくことが薬剤師の重要な役割であると考えられます。

これからも患者さんが「快適、安全、便利」に治療を受けられるよう貢献していきたいと思っています。



Shinko Infomation

第4回 神鋼病院リウマチ懇話会

日時：平成22年3月10日(水) 19:00~21:10

会場：神鋼病院3階 講堂 (神戸市中央区脇浜町1-4-47 TEL 078-261-6711)

I

座長：神鋼病院整形外科 上村 正樹 医長

合併症を伴ったリウマチ治療

尼崎医療生協病院 整形外科

柏木 聡 先生

II

座長：大谷整形外科眼科 院長 大谷 卓弘 先生

「運動器疾患に対する超音波検査」

大阪労災病院 リハビリテーション科

部長 平林 伸治先生

◆参加費として500円徴収させていただきます。◆軽食をご用意しております。◆日本医師会生涯教育講座単位5単位

◆日本整形外科学会教育研修単位2単位(別途1単位につき1,000円徴収させていただきます)

*講演I：専門医資格継続単位1単位(06リウマチ性疾患・感染症、13リハビリテーション)又はリウマチ医資格継続単位1単位

*講演II：専門医資格継続単位1単位(01整形外科基礎科学、02外傷性疾患(スポーツ障害を含む))

又はスポーツ医資格継続単位1単位

◆日本リウマチ学会単位1単位(別途、1,000円徴収させていただきます)



循環器科ホットライン

Hot Line

24時間 365日対応いたします

070-6500-7555

担当：新井 堅一

循環器疾患の救急症例について、24時間365日体制で受け入れております。循環器疾患など、昼夜を問わず該当する症例がございましたら、当院にご紹介していただけたら幸いです。24時間対応の循環器科ホットラインを整備しておりますので、お気軽にご相談いただけたらと存じます。今後とも、何卒よろしくお願い致します。

地域医療連携室(地域医療連携窓口)のご案内

■ 受付時間

- 平日：8時30分～19時00分
- 土曜日：8時30分～12時00分

■ 連絡先

- 連絡先
Tel. 078-261-6739(直通)
Fax. 078-261-6728(直通)
- 夜間・休日連絡先
Tel. 078-261-6711(代表)

- 電話・FAXにて地域医療連携室にご連絡ください。迅速に対応させていただきます。
- 平日は19:00まで、土曜日は8:30～12:00に時間外の予約受付を行っております。
- 当日受診の場合も地域医療連携室まで、ご連絡下さい。
- 時間外・休日の場合は当院の代表電話にお問い合わせください。内科系・外科系の当直医がご返答いたします。

■ 診察依頼方法

